RIFU

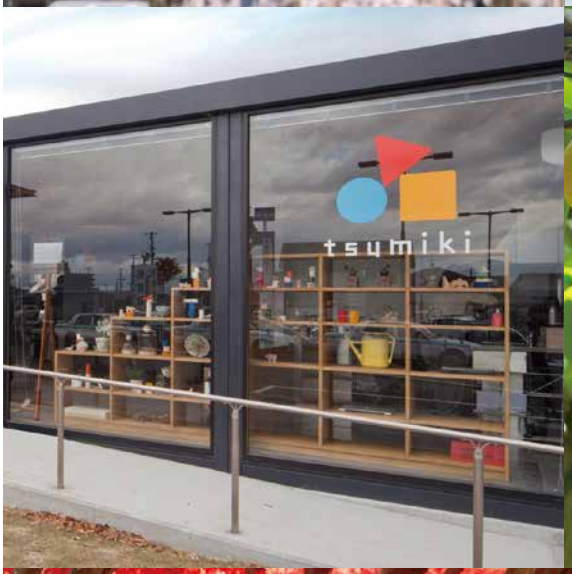
×

FLIFE

利府町 移住定住パンフレット















利府町って、どんなまち？

豊かな自然と都会の利便性。

両方の魅力が調和した

「みんなの夢がかなうまち」

利府町の暮らしをご紹介します。





利府町は、「杜の都・仙台」をはじめ「日本三景・松島」、「港町・塩竈」、「史都・多賀城」などに気軽に足を運べる好立地。仙台市を含む7つの市町に隣接し、JRの駅が3つ、インターチェンジが4つと、仙台市などへの通勤、通学にとても便利。町内では「町民バス・りふっと」が運行し、AIを活用した乗合型のオンデマンド交通サービス「利府町版mobi（モビ）※」の運行も行っています。県道8号（利府街道）沿いには東北最大級の「イオンモール新利府」等の大型ショッピングセンターが建ち並び、周辺にはさまざまな飲食店やコンビニ、病院なども充実。大都市と変わらない利便性の高い生活が可能です。日本三景松島の一角をなす絶景「馬の背」、「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」、「館山公園」、「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」、「宮城県県民の森」など四季折々の自然を満喫できるスポットが多数。「利府町文化交流センター・リフノス」もあり、自然と文化、都市機能が調和した“家族の暮らしにちょうどいいまち”です。

町内には小学校6校、中学校3校、宮城県利府高等学校と、小・中・高校が整備され、保育施設等は20か所あり、子育て支援制度も充実。起業や創業を支援する「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」では、“みんなの夢がかなうまち”を合言葉に、ワクワクするまちづくりを進めています。

※mobi…利府町役場を中心とする半径3㎞圏内に多数の乗降ポイントがあり、AIが最適なルートを判断して運行。

暮らしのDATA

人口 35,828人
※男性：17,677人　女性：18,151人

世帯数 14,841世帯

保育施設等※ 20か所

小学校 6校

中学校 3校

総合病院 2院

診療所 17か所（2026年10月末時点）

※保育施設等：保育所、認定こども園、小規模保育事業所、事業所内保育事業所などの認可保育所数

INDEX

P01 利府町って、どんなまち？
P03 利府町の魅力
P05 都会と自然がちょうどよく調和。
P07 移住までのステップ
P08 移住サポート
P09 お試し移住体験ツアー
P11 移住者インタビュー
P16 私の好きな利府
P17 移住した方に聞く！Q&A
P18 各種支援制度

利府町の魅力

杜の都・仙台まで車で約30分、
電車なら約18分。
大都市と変わらぬ利便性と
豊かな自然が共存する
心地よい暮らしを楽しめます。

JR利府駅の近くを走る県道８号（利府街道）に沿って大型ショッピングセンターや飲食店が並び、町内各地にスーパー、コンビニエンスストアが多数。JRの駅が３つ、高速道路のインターチェンジが４つ。仙台はもちろん、泉方面、石巻方面へのアクセスも便利です。「菅谷台」、「しらかし台」、「青山」、「葉山」など大規模な住宅団地が多数点在し、町の西部には森林公園「宮城県県民の森」、スポーツやエンタメなどの大規模イベントが開催される「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」があり、中心部の「利府町文化交流センター・リフノス」や「中央児童センター『ぺあくる』」は、子育て世代に人気のスポット。町中にたくさんの公園があるのも魅力です。

「SUUMO住み続けたい街ランキング2026宮城県版
子育てしやすい街（自治体）部門」第1位！
（※株式会社リクルート）

「東北版・宮城県版　街の住みここち＆
住みたい街ランキング2026」第2位！
（※大東建託「いい部屋ネット」）



アクセス

JR

東京駅 ― 東北新幹線 約1時間30分 ― 仙台駅
- 東北本線 約18分 ― 利府駅
- 仙石線 約35分 ― 陸前浜田駅

車

仙台駅 ― 県道8号（利府街道） 約30分 ― 利府駅

1 宮城県県民の森



利府町、仙台市、富谷市にまたがる広大な森林公園で、様々な動植物に出会え、遊歩道やフィールドアスレチックなども整備。

2 宮城県総合運動公園（グランディ・21）



緑に囲まれた、スポーツや散策を楽しめる運動公園。スタジアムには有名アーティストなども訪れる。

3 イオンモール新利府



東北最大級のショッピングモール。お買いものも遊びも一度に楽しめ、毎週末にはイベント開催も。

4 中央児童センター「ぺあくる」



こどもたちが自由に遊び、学習し、気軽に楽しめるみんなの居場所。屋内大型遊具「ぽっちぱーく」があります。

5 利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki



カフェ、ワークスペース、起業・創業などの相談の場としてだれでも利用でき、マルシェやセミナーなども定期的に開催。

6 利府町文化交流センター・リフノス



図書館やホール、カフェなどがある、文化・交流・学びを楽しめる複合施設。

7 モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま



広大な敷地と豊かな自然が魅力の公園。ラプラスをモチーフにした遊具も楽しめる、家族連れに人気のスポット。

©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.



都会と自然がちょうどよく調和。

01 都市機能



利府町は仙台のベッドタウンとしての快適な居住環境と、商業・スポーツ・交通の拠点としての機能が調和したコンパクトシティです。



●生活に便利な商業施設の集積
東北最大級の規模を誇る「イオンモール新利府」があり、中心の幹線道路沿いにはスーパーや飲食店、ホームセンターなどが充実しています。

●圧倒的なアクセスの良さ
仙台市中心部まで車で約30分、電車で約18分と通勤・通学に便利。松島や塩釜、多賀城への移動もスムーズです。

●行政・公共サービスの充実
町の中心部には利府町役場、交番、消防署などがバランスよく配置されており、各種行政手続きや公共サービスを受けるのに便利です。

●教育・文化
町内には主な保育施設だけで20か所、小学校は6校、中学校は3校、宮城県利府高等学校があり、教育支援も充実。「利府町文化交流センター・リフノス」もあります。

●医療・福祉の充実
「仙塩利府病院」をはじめ各種クリニックが充実。小児科が多いのも特長です。中央児童センター「べあくる」はじめ多数の児童館や子育て広場があり、安心して子育てができます。

●大規模スポーツ・レクリエーション施設
「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」には「キューアンドエースタジアムみやぎ・セキスイハイムスーパーアリーナ」があり、国際的なスポーツ大会や有名アーティストのコンサートを気軽に楽しめます。

02 豊かな自然



浜田・須賀地区は、日本三景松島の一角をなす「表松島」の海が広がり天然の桟橋「馬の背」などの絶景を楽しめる観光スポット。バナナボート、SUP（スタンドアップパドルボート）といったマリンスポーツ、島巡りや体験漁など、非日常のアクティビティが楽しめます。

町の西部には「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」、「宮城県県民の森」といった大規模な公園があり、「モリリン加瀬沼公園」をはじめ、町内には緑豊かな公園が多数点在。家族で四季折々の自然に触れ、季節ごとにお花見や芋煮会などが楽しめます。

8月下旬になると道路沿いに利府梨の直売所が一斉にオープン。人々が車を止めて「利府梨」を買い求める姿は、利府町ならではの秋の風物詩です。冬には「惣の関ダム」や「モリリン加瀬沼公園」に白鳥たちが訪れ、愛らしい姿を見せてくれます。1200年の歴史を持つ温泉宿「沢乙 うちみ」の温泉で日頃の疲れを癒すのもおすすめです。







03 子育て



町内には子どもたちに大人気の「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」はじめ緑が豊かな公園が多数。保育施設や子育て広場なども多く、子ども医療費助成制度により医療費の負担を軽減し家計を応援するなど子育て世代を手厚くサポートしています。令和4年9月には「利府町ベビーファースト活動」を宣言。こどもたちの笑顔があふれる環境づくりを推進しています。





©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

●利府町の子育て支援制度
・ベビー用品のレンタル　・こども誰でも通園制度
・はじめてのえほん事業
・全ての小中学校で給食費無償化（2026年度から）
・第3子以降の給食費を助成　・児童手当第3子以降 月額3万円
・運動着費用支援（小・中学校）　・医療費助成（18歳まで）

●ベビーファースト活動宣言



「子どもたちの笑顔があふれる環境づくり」を宣言し、子育て支援体制や保育サービス等の充実、子育て世帯の経済的負担の軽減を推進するとともに切れ目のない支援に取り組んでいます。

●利府町の子育て広場
・「十符っ子」（中央児童センター内）
・「ベア・きっず」（東部児童館内）
・「りふ～る」（西部児童館内）
・「ぽかぽか」（青山すぎのここども園内）
・「ありのみ」（アスク利府保育園内）
・「わくわくランド」（利府聖光こども園内）

利府町子育て支援サイト▶

（2026年現在）

04 住まい・仕事



●住まい
利府町は仙台市のベッドタウンとして発展を続けており、「菅谷台」や「しらかし台」はじめ「青山」、「葉山」など、区画整理事業等により整備された大規模な住宅団地には一戸建てを中心とした静かで落ち着いた街並みが広がります。大東建託の「いい部屋ネット 街の住みここち＆住み続けたい街ランキング」（東北版・宮城県版）で2025年、2026年連続2位にランクイン。快適で心地よい住環境が整っています。また「菅谷・沢乙地区」では、新たに大規模な市街地整備を進めています。

「利府町お試し移住体験住宅『e-ハマハウス 』」では、実際に利府町で暮らすイメージを気軽に体験することができます。



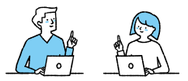
利府町移住・定住支援サイト▶

●仕事
仙台市中心部まで車で30分、電車で約18分。仙台市泉区、多賀城市、塩竈市、富谷市ほか、大和町、大郷町、松島町と7つの市町に隣接し、通勤アクセスがとても便利です。町内には「イオンモール新利府」などの大型商業施設はじめ飲食店等が集積しており、利府しらかし台インターチェンジ周辺の「明沢地区」では新たに大規模な工業団地の整備も進行中。働く人にとって利便性が高く、仕事を確保しやすい環境が整っています。

また起業・創業支援も充実しており、多数の「利府町地域おこし協力隊」が活躍しています。

みやぎ移住・交流ガイド▶

tsumikiで起業してみる▶



利府町の創業支援▶

移住までのステップ STEP

移住といっても、その目的やライフプランは人それぞれ。
それぞれのゴールに向け、移住を実現するための流れを知り、無理のない計画を立てることが大切です。
ここでは「移住」までにクリアするポイントを、いくつかのステップに分けてご紹介します。

STEP 1 移住について、家族やパートナーに相談しよう！



移住を進めるためには、身近な人の協力が欠かせません。移住の目的や理由、「なぜ移住するのか」、「どんな暮らしがしたいのか」、家族やパートナーと一緒に、焦らずゆっくり話し合ってみましょう。

STEP 2 移住に向けて、情報を集めよう！



どんな場所で、どんな暮らしをしたいのか、ある程度イメージが見えてきたら、移住検討先で配布しているパンフレットやサイトなどで、その土地の気候や制度、学校、病院など、地域の情報を集めてみましょう。移住定住イベントに参加するのも効果的です。

利府町移住・定住支援サイト▶

みやぎ移住・交流ガイド（利府町）▶

STEP 3 移住コーディネーターに相談しよう！



パンフレットやサイトだけでは、よくわからないこともたくさんあります。利府町では町への移住を検討している方をサポートするため、専任の「移住コーディネーター」が窓口相談から現地案内まで幅広く対応しています。面談はもちろん、電話・メール・オンライン（Zoom）等でのご相談も承ります。地域のリアルな情報を提供しているので、ぜひご相談ください。

▶「利府町経済産業部 商工観光課 シティセールス係」に直接ご連絡いただくか、みやぎ移住・交流ガイド：利府町＜個別相談予約＞から「オンライン（Zoom）」でのご相談も可能です。

STEP 4 行ってみよう！「移住体験ツアー」



実際に地域に足を運んでみることで、移住後の生活がよりイメージしやすくなります。利府町では専任の「移住コーディネーター」が皆さんのご要望に合わせてオリジナルの「移住体験ツアー」を組み、町内を案内しています。「利府町お試し移住体験住宅『e-ハマハウス』」についても、合わせてご相談ください。

▶詳しくはP8、P9-10 をご確認ください。

STEP 5 仕事と住まいを探す



利府町は、町内はもちろん仙台市ほか近隣市町への通勤・通学が便利なのも魅力です。リモートワークも可能ですし、起業・創業支援も充実しています。住まいについては、利府町で一戸建ての夢を叶えた方がたくさんいますし、移住の理由や目的に合わせた住まいの紹介も行っています。

STEP 6 移住の「後」のことも考えよう！



移住「後」の生活も心配になりがちですが、利府町にはみなさんの生活をサポートするたくさんの制度があります。お気軽に「移住コーディネーター」や町の職員に相談ください。

移住サポート SUPPORT

子育て



利府町は、子育て家族をあたたかくサポートする町です。充実した保育施設や子育て広場があるので、働く保護者の皆さまも安心。子ども医療費助成制度により、医療費の負担を軽減し、家計を応援します。令和4年9月には、当時、県内で初めてとなる「利府町ベビーファースト活動」を宣言。こどもたちの笑顔があふれる環境づくりを推進します。

●医療費助成

0歳から18歳の年度末まで助成。所得制限なし。
【お問い合わせ】子ども支援課 ☎022-767-2193

●子育て支援

（1）第3子以降の給食費の助成（3歳、4歳、5歳児）保育所、幼稚園、認定こども園、認可外保育施設すべて対象で、所得制限なし
（2）ベビーベッド、ベビーバス、ベビーシートを無償で貸出
（3）子育て支援アプリ「おやこ手帳」で情報発信
（4）各種講座（2～4か月児の講座、親子相談、離乳食教室、ペアレンティングプログラムなど）、妊娠期から子育て期の方への相談支援
（5）乳児見守りおむつ等お届け便 令和8年4月1日以降生まれのお子さんを対象に、1歳の誕生月まで最大3回おむつ等を無償でお届け
（6）未就学児の発達相談支援
【お問い合わせ】
（1）子ども支援課 ☎022-767-2196
（2）（3）（4）（5）（6）子ども家庭センター ☎022-356-6711

●出産支援

（1）各種助成 妊婦健診（多胎妊娠への追加助成あり、県外での里帰り出産にも対応）、妊婦歯科健診、乳児健診、産婦健診、新生児聴覚検査、産後ケア事業（訪問、通所、宿泊のサービス毎7枚合計21枚利用券交付）等各種助成あり
（2）不妊検査・不妊治療費助成
（3）講座 プレパパ・ママひろばにて妊婦体験、沐浴体験等実施
【お問い合わせ】子ども家庭センター ☎022-356-6711

詳しくはこちら▶

●就学・教育支援

（1）小・中学校入学時に、運動着費用を支援します。
（2）利府町家庭教育支援チーム（通称：とふ・十符）による保護者を対象とした家庭教育支援や、子どもと地域の方の交流を図る「放課後子ども教室」、「世代間交流事業」を推進しています。
【お問い合わせ】（1）教育総務課 ☎022-767-2179
（2）生涯学習課 ☎022-767-2125

仕事



利府町の創業支援

利府町の創業支援事業計画は、町と創業支援事業者が連携した創業・ 起業の促進を行う取り組みとして、産業競争力強化法に基づき国の認定を受けました。利府町では、この計画に基づき、商工観光課が相談窓口（☎022-767-2120）となり、「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」をはじめ利府・松島商工会、公益財団法人みやぎ産業振興機構、宮城大学、七十七銀行利府支店、仙台銀行利府支店、宮城県信用保証協会、日本政策金融公庫と連携し、町内で創業・起業に向けて検討・準備されている方の支援や、創業後のフォローアップなどに取り組んでいます。

●起業支援

（1）「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」で、起業セミナーや起業相談、チャレンジマーケット等を実施
（2）「利府町創業支援事業計画」に基づく各種支援を実施
【お問い合わせ】
（1）（2）商工観光課 ☎022-767-2120



●地域おこし協力隊

令和8年10月末現在、地域おこし協力隊が梨業等様々な活動に取り組んでいます。



地域おこし協力隊（総務省）▶

住まい



●利府町お試し移住体験住宅「e-ハマハウス」

『まず利府町で暮らすイメージをしてみたい』という方には、移住体験施設のご利用をオススメします。町内には現在令和7年4月にオープンした一軒家タイプの「利府町お試し移住体験住宅『e-ハマハウス』」があります。下記の二次元コードを読み込むと、施設の詳細・予約状況がわかりますので、利用を希望される方はご確認ください。

利府町お試し移住体験住宅「e-ハマハウス」（利府町）▶

●防災情報

利府町防災アプリ「まもりふ」は、利府町の防災情報や役立つ情報を受け取ることができるアプリです。災害時、平常時を問わず情報を迅速にお伝えします。
【お問い合わせ】危機対策課 ☎022-767-2174

防災マップはこちら▶

利府町防災アプリ「まもりふ」はこちら▶

●空き家バンク

利府町内の空き家を有効活用し、移住・定住の促進による地域活性化を図ることを目的とし、空き家の有効活用のため空き家の所有者（売りたい・貸したい方）から集めた空き家情報をウェブサイト等で広く公開し、「売りたい・貸したい人」と「買いたい人・借りたい人」とのマッチングを推進する制度です。
本事業の登録事業者は、利府町と協定を結んでいる（公社）宮城県宅地建物取引業協会または（公社）全日本不動産協会宮城本部に加盟している町内の宅地建物取引事業者のため、安心してご相談いただけます。
【お問い合わせ】商工観光課 ☎022-767-2120

詳しくはこちら▶

●町営住宅

令和8年10月末現在、町には5住宅団地、合計135戸の町営住宅があります。国からの補助を受けて運営している公の財産です。
【お問い合わせ】施設管理課 ☎022-767-2121

詳しくはこちら▶

お試し移住体験ツアー

豊かな自然と都会の利便性が共存する利府町は、JR利府駅のすぐ北西側の中心市街地から海に面した浜田・須賀エリアまで車で約10分、自然豊かな「宮城県県民の森」やスポーツ＆エンタメスポット「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」までは約15分のコンパクトシティ。専任の「移住コーディネーター」が、皆さんの日程・ご要望に合わせてご案内します。

01 中心市街地

START!



ショッピングセンターや
行政機関がそろう町の中心街

02 宮城県県民の森



利府町・仙台市・富谷市に
またがる広大な自然公園

03 モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま



自然豊かな公園は
お子さんたちに人気のスポット

©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.





04 宮城県総合運動公園（グランディ・21）



東北最大級の
スポーツ＆エンタメスポット

05 惣の関ダム湖畔公園



自然豊かな
憩いのスポット

06 浜田・須賀エリア



利府町の
シーサイドリゾート



07 中央児童センター「ぺあくる」・遊戯室「ぽっちぱーく」



雨の日も安心して
お子さんと遊べる







利府町お試し移住体験住宅「e-ハマハウス」



日本三景松島の一角をなす沿岸部・浜田地区の風光明媚なエリアにある「利府町お試し移住体験住宅『e-ハマハウス』」は、町外から利府町へ移住を検討する方に一定期間利府町で生活体験できる機会を提供し、利府町の暮らしを実感していただける施設です。

随時、お試し移住体験を受付しております。ぜひお気軽にご利用ください。

詳しくはこちら▶

●**対応可能日時**：9時～17時 ※土日祝日、年末年始を除く。
●**相談形式**：【窓　口】利府町役場シティセールス係内
【その他】電話、メール、オンライン（Zoom）

みやぎ移住・交流ガイド（利府町）▶

※Zoomでのご相談も可能です。ぜひご連絡ください。（Zoomご利用希望の方は、上記の「みやぎ移住・定住ガイド：利府町」の「個別相談予約」から「オンライン等個別相談予約の申し込み」をクリックしてご希望の日程をおしらせください。）

Interview 01











利府おもて梨園・代表
近江貴之さん

1984年生まれ、仙台市出身。大学卒業後、NTT東日本に約12年勤務。2019年7月「利府町地域おこし 協力隊」として利府町に移住。2021年7月「金の利府梨カレー」をリリース。町内の梨園を継承し、2023年4月から「利府おもて梨園」を創業。

利府梨を通して人とつながる、心身ともに豊かな、充実した日々。

大学を卒業し、2007年NTT東日本に入社。約12年間、販売企画や商品主管等に従事する中、大企業ならではの裁量権や目に見えないサービスを提供する達成感に課題を感じるようになりました。その中で“自分自身の手でモノづくりをして、お客様に喜んでもらえる仕事をしたい”という価値観が徐々に芽生え、都内で開催されていた地方創生イベントに足を運び、そこで出会ったのが利府町のブースでした。

利府町は、高校まで続けたサッカーの練習や試合で通った馴染み深い土地。イベントで利府町の担当者から梨農家の担い手や6次産業化を推進する人材を募集していることを聞き、自分の裁量で、自分の手でモノづくりや商売が出来ると考え、NTT東日本を退社して 2019年7月から「利府町地域おこし協力隊」に着任。梨農家を廃業する方から引き継いだ梨園が現在の「利府おもて梨園」です。梨園のすぐ近くにある住居兼作業場も紹介いただきました。地域おこし協力隊として梨農家の師匠から梨の栽培について学ぶ傍ら、貴重な利府梨を少しも無駄にしたくないと始めたのが、規格外の利府梨を使ったカレーの商品開発です。想像以上に大変でしたが、たくさんの方にご支援いただき2021年7月に「金の利府梨カレー」※1をリリース。県内の企業とコラボし「利府梨ジュース」や「利府梨入り冷麺」等で規格外の梨を積極的に活用しています。2023年4月には「利府おもて梨園」の代表として独立。全ておいて自身の責任と裁量のもとモノづくりをする達成感を感じながら、身も心も豊かな暮らしを満喫しています。

真っ白い梨の花が満開を迎える春、利府おもて梨園で「梨のお花見」と「梨畑ライブ」※2を開催。8月末から10月末には、梨園の前で梨の直売。当園を支援してくださる地元の方がたくさん集まります。よく足を運ぶのは、惣の関ダムの湖畔に建つ自然豊かなカフェ「生石庵Oishi-An」ですね。こちらのお店のカレーやデザートには、当園の梨を使っていただいています。「利府焼」※3の器で、利府梨を使った料理を提供する温泉宿「沢乙 うちみ」へ行く機会も多いですね。移住当初から続けている自分のSNSを、ぜひチェックしてみてください。

1 収穫間近の利府梨がたわわに実る「利府おもて梨園」　2 「金の利府梨カレー・レトルトカレー（本格スパイスカレー・チキン）」　3 4月下旬頃から満開となる梨の花　4 例年8月末から10月末にかけてオープンする「利府おもて梨園」の直売所。（写真は利府町観光大使・アサノタケフミさん）　5 惣の関ダム湖のほとりに建つ森の中のカフェ「生石庵Oishi-An」

※1：宮城県利府町の名産品「利府梨」を贅沢に使った梨農家の本格スパイスカレー。すりおろした梨と7種のオリジナルスパイスが調和。
※2：6年程前から「利府おもて梨園」では梨のお花見のイベントを開催。BBQの燃料には剪定で伐採した梨の枝を使用。
※3：利府町特産の利府梨の剪定などで出た木や枝の灰を釉薬の原料に使い、地元で採取した土などを組み合わせて作られる陶芸作品。利府町の陶芸家・鈴木俊明さんの作品の釉薬には、「利府おもて梨園」で伐採した枝を燃やした梨灰を使用。



Facebook▶
X▶
Instagram▶
金の利府梨カレーのご購入はこちら（利府おもて梨園公式通販HP）▶

Interview 02











一般社団法人larugo（ラルゴ）代表
レジンアクセサリー作家・
Carlotta：カルロッタ
大宮紗妃さん

1983年生まれ、山形県出身。大学進学を機に仙台に移住。2009年利府町在住のご主人と結婚し、利府町に移住。3人の子育てをしながら、2017年に「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」の「こ・あきない市」に手作りのレジンアクセサリー「Carlotta：カルロッタ」を出店。翌2018年からtsumikiコーディネーターとして活動。2024年「一般社団法人larugo（ラルゴ）」設立。

子育ても、起業も、手厚く応援してくれる「みんなの夢がかなうまち」に暮らす。

2009年、結婚を機に仙台から主人の実家がある利府町に移住。利府町は自然が豊かで、環境が良い。街が発展していく様子にも可能性を感じました。子ども達が小さかった頃は「館山公園」や「モリリン加瀬沼公園」はじめ近くの公園に連れて行くことができましたし、妊婦健診や乳幼児健診の助成、0歳から18歳の年度末までの医療費全額助成、小・中学校入学時に運動着費用の支援など、利府町の子育て支援の手厚さは県内トップクラスだと思います。見知らぬ土地での子育ては不安なものですが、ご近所や子育て広場などの方々に支えていただけて、本当に良い町だと実感しました。利府町の好きな場所は「館山公園」です。子どもたちと訪れた思い出の場所であるとともに、利府町を一望できる景色と自然から四季を感じることができます。ライトアップされた桜もとてもきれいですよ。また松島湾に面した浜田エリアも、海を見て心が落ち着く気持ちの良いスポットです。

次女が幼稚園に通いはじめた2017年、自分で作った1点もののレジンアクセサリーを「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」の「こ・あきない市」※1に出店。大学で経営を学び、いつかは自分の店を持ちたいという夢があり、結婚前に習っていたお花の師匠から販売方法など教えてもらい「Carlotta：カルロッタ」を立ち上げ。起業を目指す人のために開催されていた「こ・あきない塾」※2も受講しました。2018年「tsumiki」でコーディネーターをやってみないかと背中を押していただき、イベントの企画・運営等に携わりました。そこで地域の作家さんやアーティスト、地域企業の方々とのつながりができました。皆さんと表現の場をつくり、一緒に仕事を生み出していきたいと2024年に「一般社団法人larugo（ラルゴ）」を立ち上げ。イベントの企画や町内企業との連携事業である「かたわらマルシェ」※3の運営などを行なっています。今の自分があるのは、自分を育ててくれた利府町や「tsumiki」のおかげ。“みんなの夢がかなうまち”利府町に暮らして本当に良かったし、これからは新たなクリエイターの発掘・育成など、恩返しをしていきたい。利府町は子育ても起業も、頑張る人を応援してくれる町。一緒に町の未来をつくっていく仲間が増えたらうれしいですね。

1 大宮紗妃さん。「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」前で　2 「一般社団法人larugo（ラルゴ）」登録クリエイターの皆さん　3 イオンモール新利府・南館で定期開催している「かたわらマルシェ」の様子　4 大宮紗妃さん「Carlotta：カルロッタ」のアクセサリー　5 館山公園の桜・夜のライトアップ

※1：将来の起業や小さな商い（小商い）に挑戦したい人を応援する地域密着型のマルシェイベント。「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」が中心となって年2回程度開催。
※2：地域資源を活かしたスモールビジネス（小商い）による起業や、自分らしい仕事づくりを支援する連続講座。現在は「つみきの学校」などに発展。
※3：イオンモール新利府・南館で主に毎月第2・第4火曜日に開催されている屋内型マルシェ。「一般社団法人larugo（ラルゴ）」が運営を担い、地域のクリエイターや市民が手仕事を通じて交流できる場になっている。



一般社団法人larugo▶
Carlotta：カルロッタ▶
一般社団法人larugo かたわらマルシェ▶

Interview 03











パパロ玲さんご家族

1990年生まれ、千葉県出身。後、秋田県に転居。2011年、宮城県仙台市にある専門学校を卒業してオーストラリアの大学に入学。卒業後シドニーの貿易会社に就職。銀行員のパパロ・マイケルさんと出会い2019年に結婚。2020年に長女、2022年に次女、2024年に長男、2026年1月に三女が誕生。2026年3月、オーストラリアから宮城県利府町に移住。

1 パパロさんご家族（玲さんとご主人・マイケルさん、長女・ソフィアちゃん（6歳）、次女・エマちゃん（4歳）、長男・マテオくん（2歳）、三女・オリビアちゃん（9ヵ月）　2 中央児童センター「べあくる」　3 中央児童センター「べあくる」・遊戯室「ぽっちぱーく」　4 「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」　5 JR利府駅前の広場でくつろぐパパロさんご家族

子育てしやすさも、暮らしやすさもNo.1。自然も豊かな、ずっと住み続けたいまち。

2026年3月、主人のマイケルと6歳（年長クラス）の長女、4歳（年少クラス）の次女、こども園に通う2歳の長男、そして生後3か月の三女と、家族5人で、オーストラリアから宮城県利府町に移住しました。

利府町は仙台に近く、自然が豊かで海もあり、買い物や外食なども便利。将来的には広い庭のある一軒家で暮らしたいと考えているので、10年先、20年先を見越しても利府町が一番住みやすいと思い、移住を決めました。主人のマイケルはシドニーで銀行員をしていたので、大都市と変わらない利便性を備えた利府町で暮らす際のコストパフォーマンスを他の地域と細かく比較。自然の豊かさ、子育てしやすさ、暮らしやすさなど、全てのバランスが最高だと言っています。2023年に母の実家がある秋田に一度お試し移住したのですが、冬はとても寒く、雨や雪が降った時に子どもを連れて行ける屋内の遊び場も少ない。その点利府町は「べあくる」※1の遊戯室ほか室内の遊び場が多く、公園も街中にたくさんあって、外でも屋内でも子ども達がのびのびと遊べることが決め手になりました。

移住に際しては、利府町のオンライン移住相談を活用。画面で「べあくる」の室内遊び場や保育園の自然豊かな園庭などを確認でき、保育園探しから入園に向けた相談や手続き、住まい探しなど、丁寧にサポートいただきました。移住後はベビーベッドの無償貸出制度を利用し※2、大変助かりました。私は留学エージェントの仕事を在宅ワークで継続、主人は仙台に通って日本語の勉強中で、海外向けに日本の暮らしを紹介するYouTube※3の配信もしています。仙台にある日本語学校までは車で30分弱、東北新幹線のJR仙台駅や仙台空港へのアクセスもいいですね。オーストラリアは海が身近にあったので、子ども達がもう少し大きくなったら浜田の海でシュノーケルなども楽しみたいです。「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」の公園や「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」で遊ぶのも大好きです。これからの利府町での暮らしを、家族みんなで楽しみにしています。

※1：正式名称：中央児童センター「べあくる」。子どもたちが自由に遊んだり、学習したり、気軽に楽しめる施設。屋内に遊戯室「ぽっちぱーく」、屋外には軽運動場や児童広場があり、児童センターほか子育て広場「十符っ子」、児童クラブ（利府小児童クラブ）を開設。

※2：利府町独自の子育て支援事業のひとつで、ベビーベッドほか、ベビーバス、ベビーシートを無償で貸し出す制度。他に子育て世代を支援する「子ども医療費助成事業」、「小学校・中学校学校給食費無料化事業」などさまざまな支援事業を展開。

※3：ご主人のパパロ・マイケル様が配信する海外向けYouTube「Gap Year Dad Japan」

利府町中央児童センター「べあくる」▶

利府町ベビーファースト宣言事業▶

パパロ・マイケル様YouTube「Gap Year Dad Japan」▶

Interview 04











ベビーマッサージ・ベビーヨガ教室
ponopark（ぽのぱーく）・主宰
川村　恵理香さん

1990年生まれ、多賀城市出身。2019年に結婚、ご主人の転勤で東京都に移住。2021年10月夏紬君誕生。2022年ベビーマッサージ・ベビーヨガ講師の資格を取得し、「ponopark（ぽのぱーく）」設立。2023年、利府町に新築一戸建てのマイホームを購入し、翌2024年春に移住。ご主人は、仙台転勤になった2026年4月に移住。

1 川村さんご家族（左から川村恵理香さん、夏紬君（4歳・保育園年中）、ご主人・峻さん、愛犬・ヨウタ（7か月）　2 桜満開の「館山公園」で撮影した家族写真※撮影：川村峻さん　3 紅葉の「宮城県県民の森」で。ご主人・峻さんと夏紬君※撮影：川村峻さん　4 ベランダで愛犬・ヨウタと戯れる夏紬君　5 「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」つどいの広場

徒歩圏内になんでも揃う利便性が決め手。子育てしやすく、“夢”にもチャレンジ！

2023年利府町内に新築一戸建てのマイホームを購入し、息子の夏紬（なつ）が保育園に入る2024年の春を待って東京から移住。主人は仕事の関係で、2年程東京で単身赴任していましたが、2026年4月に仙台転勤の辞令が出てこの春から家族3人の暮らしがスタート。念願だったワンコ（愛犬：ヨウタ）もお迎えしました。2021年に息子が生まれ、自分も主人も地元の宮城県に帰りたいと思っていたので、東京で移住先探し。宮城県内で仙台までのアクセスが良い場所、私は運転が苦手なので病院や保育園、スーパーなど、生活に必要な施設がすべて徒歩圏内にそろう場所。周囲の環境やコミュニティへの溶け込みやすさも考えて選んだのが利府町でした。現在の住まいは「イオンモール新利府」などのスーパーまで歩いて10分程度で行けるので、とても便利。町内に小児科が多いのもうれしいですね。子どもを連れて「べあくる」や「リフノス」へ。「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」※1は空気がとても気持ちよくてワンコの散歩にもぴったり。未就学児のための屋内遊び場もあるんですよ。主人は写真撮影が趣味で、春は桜、秋は梨狩り、紅葉と、四季折々に「館山公園」や「モリリン加瀬沼公園」などへ家族で出かけ、息子のベストショットを撮るのが楽しみです。

自宅の2階では、「ponopark（ぽのぱーく）」というベビーマッサージ・ベビーヨガ教室を開いています。東京で息子が生まれてすぐの頃産後うつ気味になり、たまたまベビーマッサージの動画を見て息子に試したら笑ってくれて。自分でもやってみようとすぐに資格を取り、2022年に「ponopark（ぽのぱーく）」を立ち上げました。東京の国分寺市にある子育て広場等で赤ちゃん体操などの講師を務めた実績があり、利府町に移住してからも町内の保育園や子育て広場※2でベビーマッサージ等をお伝えしています。この7月からは「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」で開講している「つみきの学校」※3で勉強中。利府町はチャレンジする人を応援してくれるまち。将来的には町に“ママカフェ”を作り、赤ちゃんを連れたママたちがご飯を食べたりおしゃべりしたりできる場所を作りたい。そして利府町をより一層、“子育てが楽しいまち”にしていけたらうれしいですね。

※1：約5万人を収容できる「キューアンドエースタジアムみやぎ」はじめ、室内競技の国際大会や各種イベント等にも対応できる「セキスイハイムスーパーアリーナ」ほか「みやぎ生協めぐみ野フットボール場」などがある総合スポーツ施設。「つどいの広場」や「遊具広場」には広い芝生エリアがあり、子どもに人気の大型遊具もそろう。

※2：利府町には「十符っ子」「ベア・きっず」「りふ〜る」「ぽかぽか」「ありのみ」「わくわくランド」6つ（2026年現在）の子育て広場があり、小学校入学前の乳幼児と保護者が無料で利用できる。絵本やおもちゃなどが用意され、常駐の保育士による育児相談や栄養相談なども実施。

※3：2026年7月に「tsumiki」で開校した、個人の「やってみたい！」をカタチにする約半年間の伴走支援プロジェクト。多彩なプログラムや豪華講師陣による特別授業、開業の基礎知識を学べる講座を実施。

ベビーマッサージ・ベビーヨガ教室「ponopark（ぽのぱーく）」▶

宮城県総合運動公園（グランディ・21）▶

Interview
05











利府町在住・公務員
吉田　椋さん

1994年生まれ、秋田県出身。大学進学を機に仙台市に移住。2017年に就職。2019年に大学で知り合った山形県出身の由紀さんと結婚。2022年、仙台市から移住。2023年に長女・梨乃ちゃん、2025年に次女・莉々ちゃん誕生。奥様も公務員で共働きのため、二人のお子さんは近隣の認定こども園に通園中。育休などもフルに活用しながら子育てしている。

1 吉田さんご家族：左から奥様・由紀さん、次女・莉々ちゃん（1歳）、吉田椋さん、長女・梨乃ちゃん（2歳）　2 奥様・由紀さんと次女・莉々ちゃん　3 長女・梨乃ちゃんと椋さん　4 四季折々の自然が楽しめる「モリリン加瀬沼公園」。秋には公園内の木々が美しく色づきます。　5「利府町文化交流センター・リフノス」の図書館

仙台が近く、県内どこへでもアクセスが便利。乳幼児の子育て支援制度や保育施設も充実！

2022年に利府町内に新居を購入し、仙台市から移住しました。妻の希望は、近くにきれいで大きな図書館があること。私自身はツーリングが趣味で、車とバイクを入れるガレージが欲しかったので、比較的広い土地を手に入れやすい移住先を探しました。利府町は手頃な土地を入手しやすく、「利府町文化交流センター・リフノス」※1には大きな図書館があります。これが利府町を選んだ理由のひとつです。もうひとつはアクセスの良さですね。利府JCT（ジャンクション）から北は石巻方面、南は大河原方面と、県内どこへでも通勤しやすい。自分は宮城県内各地への異動がある職場なので、これも決め手になりました。仙台市が近く、妻は電車通勤なので、JR東北本線1本で仙台に行けることも大きなポイントです。スーパーなども近所にたくさんあり、とても便利に暮らしています。

また、利府町は子育て支援制度はもちろん、保育園やこども園などの数が多く※2、子育てしやすい環境が整っています。現在、長女・梨乃（りの）は2歳10か月、次女・莉々（りり）は1歳5か月で、長女が生まれた時はベビーベッドを無償でレンタルし、「子ども医療費助成」などもひと通り活用させていただきました。妻も公務員で共働きのため子どもを保育園などに預ける必要があり、乳幼児の受け入れ施設を他の市町村もいろいろ探しましたが、利府町ほど施設や体制が整っているところは少ないようです。二人の子どもは家の近くにある「利府聖光（せいこう）こども園」※3に通っていますが、先生方がとてもやさしく、安心して子どもを預けることができます。「子育て広場」も町内に6か所あり、葉山にある東部児童館の「ペア・きっず」※4は比較的人が少なく、子ども達のお気に入りでよく利用していますね。近所には「モリリン加瀬沼公園」があり、子ども達は広場で走りまわったり“どんぐり”をたくさん拾ったりして楽しんでいます。家の周囲には新築の家が多く、住んでいる方も年齢が近く子育て中でライフスタイルが似ているので、近所付き合いの面でも暮らしやすさ、子育てのしやすさを感じています。

※1：図書館ほか、公民館、文化会館、カフェが一体となった文化複合施設で、図書館には子ども向けの児童図書から一般書まで充実。
※2：利府町には認定こども園が7か所、認可保育所が7か所、地域型保育施設が6か所、合計20か所の保育施設があり、うち15か所で0歳児からのお子さんを受け入れている。※詳細は要問合せ。
※3：利府町加瀬にある認定こども園。広い原っぱの斜面や園庭があり、子どもたちは自然の中でのびのびと遊ぶことができる。2024年度に「幼保連携型認定こども園」に移行し、0歳児からの受け入れを開始。
※4：子育て中の保護者と乳幼児のための子育て広場もあり、専任の職員が常駐して育児相談なども実施。

モリリン加瀬沼公園▶
利府町文化交流センター・リフノス▶
利府町認可保育施設一覧▶

私の好きな利府

利府町ならではの季節の風物詩やイベントを集めました。
まちには美しい景色や楽しい催しが盛りだくさんです。

SPRING







1 館山公園でお花見
2 桜が散る頃、梨の花が満開に
3 初夏の惣の関ダム湖畔公園

SUMMER



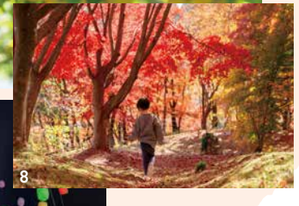




4 ハマスカ・夏の風景
5 ハマスカで体験漁業を満喫
6 榎川砂防公園で水遊び

AUTUMN

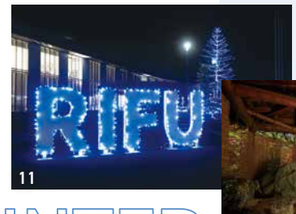






7 利府町の特産品・梨の最盛期
8 宮城県県民の森の紅葉
9 ハマスカ秋祭り・ランタン打ち上げ







10 冬は白鳥が飛来する加瀬沼
11「利府町文化交流センター・リフノス」のイルミネーション
12 温泉宿「沢乙 うちみ」

WINTER

移住した方に聞く！Q&A



実際に利府町に移住してきたご家族に、移住のきっかけや
このまちでの暮らしについてお聞きしました。

Q1 利府町に移住した理由は？



A 実家のある仙台市の近くで子育てをしたいと思っていたことと、利府町ならマイホームの夢を叶えられそうだと思ったから。

Q2 移住後の利府町の印象は？



A 商業施設や役場が市街地に集まっていて便利。駅近くの飲食店は夜遅くまで営業しているし、近所のコンビニやスーパーでも何でもそろう。住んでいる人たちがとても親切なのもうれしい。

Q3 子育てはしやすいですか？



A ベビー用品のレンタルや医療費の助成制度など、とても助かりました。「宮城県県民の森」や「モリリン加瀬沼公園」をはじめとした公園が数多くあり、中央児童センター「ぺあくる」や「利府町文化交流センター・リフノス」といった屋内でも楽しめる施設が充実しているので、雨の日も子どもを連れて行く場所に困りません。

Q4 利府町に移住して良かったことは？



A 移住してから「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki」のイベントに参加するようになり、これまで諦めていた夢が叶えられそう。新しい仲間もできたし、「利府おもて梨園」や「ハマスカ」のイベントも楽しい。

Q5 交通手段はどうしていますか？



A 自家用車です。自宅から市街地まで車で10分くらい。「宮城県県民の森」は家のすぐ近くで、「モリリン加瀬沼公園」も5分くらい。夫は仙台に通勤しているけど、職場までは30分弱です。

Q6 雪はどのくらい降りますか？



A 年に1〜2回は少し積もるけれど、ほとんど気にならない。雪道の運転も、冬の初めに軽く雪が降った時に運転の感覚はつかめると思いますが、スリップすることがあるのでくれぐれもスピードは出さないように。

各種制度・助成一覧



移住支援金

東京23区に在住、または東京圏在住で23区内に通勤する方が宮城県に移住し、対象求人へ就業するなどの一定の要件を満たす場合に、移住先の市町村が予算の範囲内において支給するものです。

●支援額

・世帯移住…100万円　・単身移住…　60万円

※世帯移住により、18歳未満の世帯員の方が一緒に移住される場合は、18歳未満の方おひとりにつき100万円加算されます。
注）予算の上限に達した場合は、早期に申請受付を締め切る場合がございます。申請予定の方は、移住先市町村の担当窓口にお早めにご相談ください（申請期限：移住後1年以内）の延長は行いませんのでご注意ください）。

●主な要件（下記以外にも様々な要件があります）

1.移住元
東京23区在住者、または東京圏から東京23区への通勤者※1

2.移住先　(1)〜(5)のいずれかに当てはまる方
東京23区在住者、または東京圏から東京23区への通勤者※1
(1)「みやぎ移住・交流ガイド」に掲載されている対象求人に就業した方
(2)「みやぎU|Jターン起業支援補助金」※2の交付決定を受けた方
(3)ご自身の意志で地方に移住し、移住先を生活の拠点として、移住元での業務を引き続きテレワークで行う方
(4)専門人材事業※3を活用して就業された方
(5)移住先の市町村が設定した関係人口に該当する方

詳細はこちら「みやぎ移住・交流ガイド」▶

【お問い合わせ】
移住相談全般：みやぎ移住サポートセンター（東京都千代田区有楽町2-10-1）
☎090-1559-4714　✉miyagi@furusatokaiki.net
申請について：移住先が決まっている方は、下記二次元コードより移住（予定）先の市町村へお問い合わせください。
●宮城県企画部地域振興課移住定住推進班
☎022-211-2454
✉tisini@pref.miyagi.lg.jp

市町村連絡先「市町村移住支援金申請窓口一覧」▶

※1：住民票を移す直前の10年間のうち、通算5年以上かつ直近の1年以上、東京23区内に在住、または東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県（一部地域を除く））に在住し、東京23区内へ通勤をしていた方。なお、東京23区内の大学等に通学し、23区内の企業へ就職した方については、通学期間も上記対象期間に加算することが可能です（ただし、加算年数は修業年限を上限とし、23区外のキャンパス等に通う期間は加算対象外となります）。
※2：東京圏から宮城県内に移住し、地域の課題に対して、社会性・事業性・必要性・デジタル技術の活用等の観点をもって取り組む社会的事業の起業に対する支援制度で、対象経費に対して最大で100万円を補助（補助率1/2）。
詳しくは、右記二次元コードよりご確認ください。
【お問い合わせ】
宮城県仙台市青葉区一番町2丁目3-22
仙台ビルディング4階（株式会社全力優内）
✉info@z-suguru.co.jp

みやぎUIJターン起業支援補助金▶

※3：プロフェッショナル人材事業（宮城県プロフェッショナル人材戦略拠点を利用したもの）又は内閣府が行う先導的人材マッチング事業により就業及び移住された方が対象。

人材紹介パートナー（事業協力）（宮城県プロフェッショナル人材戦略拠点ホームページ）▶

先導的人材マッチング事業（内閣府ホームページ）▶



利府町まちづくり支援・夢チャレンジ事業補助金

利府町では、「もっと先へ、チャレンジ利府！みんなの夢がかなうまち」を合言葉として、まちづくりに寄与する取組や夢にチャンジレンジする取組を支援するため“まちづくり支援補助金”と“夢チャレンジ事業補助金”の2種類の補助金を交付します。

●まちづくり支援事業補助金

利府町公益活動団体に登録している団体が行う、地域活性化の促進を図る事業に対して交付。

【交付対象者】※下記すべてを満たす方が対象になります。
・利府町公益活動団体であること
・団体規約及び団体名簿を提出できること
・活動実績等を町の広報紙やホームページ等により公表することに同意していること
・町から他の補助金等の交付を受けていないこと
【補助率】
補助対象経費の4分の3（75%）
【補助金額】
補助対象事業の合計額（1団体 上限20万円）
【申請可能回数】
1団体につき1年度に1回。計3回（ただし、その場合でも1団体につき合計額20万円を上限とします。）
【対象経費】
※詳細は下記二次元コードからご確認ください。

●夢チャレンジ事業補助金

町民が夢の実現のためにチャレンジする事業に対して交付。

【交付対象者】※下記すべてを満たす方が対象になります。
・利府町に3ヶ月以上引き続き住んでいる方
・活動実績等を町の広報紙やホームページ等により公表することに同意していること
・町から他の補助金等の交付を受けていないこと
【補助率】
補助対象経費の10分の10（100%）
【補助金額】
補助対象事業の合計額（上限10万円）
【申請可能回数】
1回のみ※過年度に夢チャレンジ応援補助金の交付を受けた方は申請出来ません。
【対象経費】
※詳細は下記二次元コードからご確認ください。

利府町まちづくり支援・夢チャレンジ事業補助金について▶

利府町移住定住支援サイト

利府町への移住希望者に対して地域情報の提供や移住相談を行うためのプラットフォームです。
「お試し移住体験のお知らせ」や、「住まいや仕事探しに関する情報等を掲載しています。

詳細はこちら▶

利府町子育て支援サイト

地域の遊び場や行政手続きなど、子育て世帯に必要な情報を集約したサイト。妊娠・出産から子育てに関する情報を、年齢別・目的別に検索できます。

詳細はこちら▶



RIFU
×
LIFE

お問い合わせ

利府町 経済産業部 商工観光課
〒981-0112　宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地
TEL：022-767-2120
FAX：022-767-2107
mail：citysales@rifu-cho.com

利府町公式サイト

利府町移住・定住
支援サイト